人間社会デザインコース・希望の経済学
担当教員：松野尾　裕

コース・課程の DP（教育到達目標）に基づいた授業評価

社会科教育講座・松野尾　裕

１．授業の概要

授業の基本テーマ：
経済の発展と人間の発展(economic development and human development)の探究。

教職資格にかかわる事項：中一種免（社会）「社会学、経済学」・高一種免（公民）「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の選択科目。

授業の目的：21 世紀の社会を真に人間の思いやりに満ちた社会とするために、経済活動はいかにあるべきか。そのビジョンを描き実現の可能性を追究するための基礎的力を身につける。

授業の到達目標：
(1)人間が生きるにふさわしい経済社会の創造を模索する思考を身につけている。(2)幾つかの著作を手がかりにして新しい経済社会を構想する短いエッセーを論述することができる。(3)社会的企業や NPO 等の新しい経済社会をつくる具体的な運動に関心を持つことができる。

授業の内容と展開：人間が生きるにふさわしい経済社会を創造しようとする実践的・理論的試みを幾つかの事例に則して追究する。授業スケジュールは下記の通り。
第１回　はじめに
第２回　人間の経済（１）
第３回　人間の経済（２）
第４回　A.T.アリヤラトネの実践－サルボダヤ・シュラマダーナ（１）
第５回　A.T.アリヤラトネの実践－サルボダヤ・シュラマダーナ（２）
第６回　A.T.アリヤラトネの実践－サルボダヤ・シュラマダーナ（３）
第７回　M.ユヌスの実践－グラミン・バンク（１）
第８回　M.ユヌスの実践－グラミン・バンク（２）
第９回　M.ユヌスの実践－グラミン・バンク（３）
第１０回　賀川豊彦の実践－生活協同組合（１）
第１１回　賀川豊彦の実践－生活協同組合（２）
第１２回　賀川豊彦の実践－生活協同組合（３）
第１３回　A.センの経済学（１）
第１４回　A.センの経済学（２）
第１５回　むすび

授業の方法：第１回～第３回と第１５回は教員の講義、第４回～第１４回は受講者による報告と討論を中心とし、適宜、教員による補足説明がある。

授業時間外の課題：授業における報告・討論のための準備をおこなう。また、授業中に指示された参考文献や資料等を利用して、理解の不十分なことがらを調べる等の復習をおこなう。授業時間外の学習に毎週おおむね３～４時間を要する。

授業で用いたテキスト：
(1) M.K.ガーンディー/田中敏雄訳『真の独立への道（ヒンド・スワラージ）』岩波文庫、2001 年
(2) A.T.アリヤラトネ/山下邦明・林千根・長井治訳『東洋の呼び声 拡がるサルボダヤ運動（新装版）』はる書房、2001 年
(3) ムハマド・ユヌス/猪熊弘子訳『貧困のない世界を創る－ソーシャルビジネスと新しい資本主義－』早川書房、2008 年
(4) 賀川豊彦/野尻武敏監訳/加山久夫・石部公男訳『友愛の政治経済学』コープ出版、2010 年
(5) アマルティア・セン/池本幸生・野上裕生・佐藤仁訳『不平等の再検討』岩波書店、1999 年
(6) 松野尾裕「希望の経済学・試論」『地域創成研究年報』第５号、愛媛大学地域創成研究センター、2010 年所収

成績評価：授業中の報告・討論内容と期末に課すレポートの内容に基づく。評価の基準は、まず授業の内容を理解しているか(50 点)、次いでその理解した内容を各自の考察へと発展させているか(50 点)、である(計 100 点)。

授業時限：後期、火曜日、２時限

履修登録者数：１７人
受講者数：１４人
　人間社会デザインコース２回生　１２人
　人間社会デザインコース３回生　　２人

授業の進行状況および期末レポートの課題：授業

はほぼ当初の授業スケジュール通りに進行した。期末のレポートでは､提出期限まで２週間をとり、授業の内容を十分に振り返ったうえで、コースの主要テーマである＜社会の在り方と人間の生き方をデザインする＞という観点から、各自の問題意識に即して論点を設定し、A４レポート用紙２～３枚程度にまとめるよう指示した。

２．授業評価法

下記の授業改善のためのアンケートを実施した。

このアンケートは授業の改善を図ることを目的として実施するものです。アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることは決してありません。率直な意見をご記入願います。

（氏名　　）

次の５つの項目は人間社会デザインコースの教育目標（ゴール）です。**この授業が各目標の達成に役立ったと思うか**，１～５の中から１つを選択して〇で囲ってください。

１思わない　２やや思わない　３どちらとも言えない　４やや思う　５思う

（知識・理解）　１　２　３　４　５
共生社会を築くための議論を理解し知識を習得している。

（思考・判断）　１　２　３　４　５
自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザインすることができる。

（技能・表現）　１　２　３　４　５
科学的・実践的な知見に基づいて社会問題に柔軟に対応できる技能と表現力を身に付けている。

（関心・意欲）　１　２　３　４　５
現代社会の諸問題に関心を持ち，主体的な学習ができる。

（態度）　１　２　３　４　５
共生社会にふさわしい対人関係能力を身に付け，適切な行動ができる。

自由記述欄（この授業に関する意見があれば自由に記述してください）

３．授業評価結果

受講者１４人全員が回答した。

	1	2	3	4	5
（知識・理解）	0	0	0	10	4
（思考・判断）	0	1	3	8	2
（技能・表現）	0	1	8	3	2
（関心・意欲）	0	0	4	9	1
（態度）	0	1	8	4	1
計	0	3	23	34	10

（参考）２１年度「希望の経済学」授業評価結果
（回答者１４人）

	1	2	3	4	5
（知識・理解）	0	2	2	7	3
（思考・判断）	0	1	6	6	1
（技能・表現）	2	2	4	6	0
（関心・意欲）	0	2	2	6	4
（態度）	1	1	5	4	3
計	3	8	19	29	11

４．追加アンケート　総合人間形成課程 DP を用いた授業評価結果

総合人間形成課程 DP（省略）のそれぞれについて､この授業の受講前と比較して向上しましたか。

１向上していない　２どちらかと言えば向上していない　３どちらかと言えば向上した　４向上した

	1	2	3	4
（知識・理解）	0	2	8	4
（思考・判断）	0	6	5	3
（技能・表現）	0	8	6	0
（関心・意欲）	0	5	7	2
（態度）	0	4	8	2
計	0	25	34	11

５．まとめ

受講者は人間社会デザインコース２回生が１２人、同３回生が２人であった。授業評価アンケートに授業の到達目標ではなく、それよりも大きな枠組みであるコースのＤＰや、さらに課程のＤＰを用いることについては、ＦＤの議論で賛否両論がありえよう。また、それぞれの学生の受講目的に応じた授業評価がなされてよいともいえる。授業の適正さを評価するために如何なる基準を用いればよいかは、実際、試行錯誤のところがある。「希望の経済学」はコースのオリジナル科目として当初から設計された科目であるので、コースのＤＰと照らして評価してもらった。評価結果は上に示した通りである。「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」の数字が比較的高いのに対し、「技能・表現」「態度」が低い数字となっている。この傾向は昨年度と変わっていない。また、課程のＤＰを用いた評価では、「思考・判断」がやや低くなり、「態度」がやや高くなっている。ＤＰは卒業時の到達目標であるから、２回生の学生にはまだまだ遠くに望むゴールである。「技能・表現」は他の科目を履修するなかで身に着けてもらうことを期待したい。